

## ＜対策のポイント＞

循環型社会の実現を目指し、事業系食品ロスの削減に向けたフードサプライチェーン全体における課題解決や、食品企業における未利用食品の寄附促進につながる供給体制の構築、食品リサイクルの効率化等の取組を推進します。

## ＜事業目標＞

- 2000年度比で事業系食品ロス量を60%削減（231万トン[令和5年度実績]→219万トン[令和12年度まで]）
- 食品リサイクル等実施率を向上（食品小売業63%[令和5年度実績]→65%、外食産業34%[令和5年度実績]→50%[令和11年度まで]）

## ＜事業の内容＞

### 1. 外食事業者等と連携した食品リサイクルの効率化等モデル支援

食品ロス削減・食品リサイクル推進が進んでいない外食事業者等地域の関係者が連携した食品リサイクルの効率化・ブランド化、地域の未利用資源の活用に係る取組の実証や横展開等を支援します。

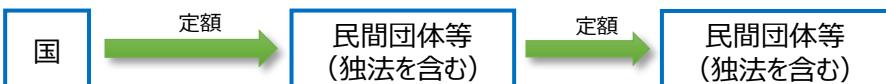
### 2. 未利用食品の供給体制構築緊急支援

食品企業による未利用食品の寄附促進につながるよう、**提供可能な食品やそのニーズに係る情報を共有・コーディネート**し、食品企業が物流事業者等と連携して食品の提供をワンストップで行うことが可能となる体制の検討・実証を支援します。

### 3. 食品ロス削減緊急対策モデル支援

食品業界におけるDXの推進をはじめ、サプライチェーン全体におけるAI需要予測等の精度向上に向けた実証を支援します。

## ＜事業の流れ＞



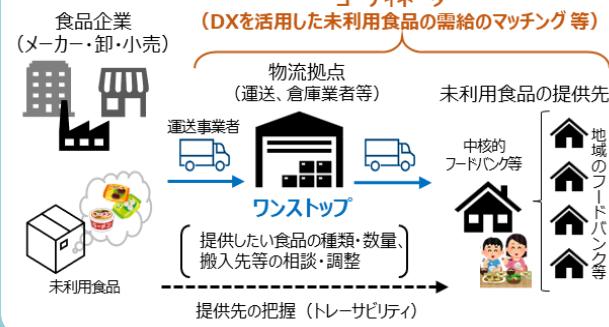
## 食品リサイクルの効率化等モデル支援

### ＜食品リサイクルの効率化・ブランド化＞



## 未利用食品の供給体制の構築

### コーディネーター (DXを活用した未利用食品の需給のマッチング等)



## 食品ロス削減に資する新たな技術の活用

### ＜AI需要予測のサプライチェーン全体への適用＞

これまでのデータ活用範囲（一部事業者）  
効果は限定的



サプライチェーン全体で  
データを活用  
□ 発注数量を最適化  
□ 発注リードタイムを延長

